

飯伊地区 産業経済動向

No.501 2020/12
(3.1.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比
手 形 交 換 高 (飯田手形交換所扱)	枚 数	2,697 枚	0.3 %	△ 19.6 %
	金 額	3,556,043 千円	2.2 %	△ 20.7 %
う ち 不 渡 発 生 状 況	枚 数	0 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 0 枚)
	金 額	0 千円	(前月 0 千円)	(前年同月 0 千円)
倒 産 件 数 (負債額1千万円以上)	県 内	2 件	(前月 6 件)	(前年同月 10 件)
	飯 伊	0 件	(前月 0 件)	(前年同月 0 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数)(11月)		53 戸	△ 39.1 %	△ 45.9 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(11月)		1.15 倍	(前月 1.03 倍)	(前年同月 1.41 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	2,127 台	△ 2.2 %	5.8 %
	中古車	701 台	3.1 %	6.2 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (11月)	新 車	4,335 台	2.3 %	7.5 %
	中古車	832 台	△ 9.8 %	△ 11.2 %
中 央 道 利 用 台 数 (飯田インター分)	入	91,479 台	△ 12.9 %	△ 16.5 %
	出	93,242 台	△ 10.9 %	△ 17.5 %
中 央 道 利 用 台 数 (松川インター分)	入	66,785 台	△ 18.5 %	△ 12.5 %
	出	66,221 台	△ 19.6 %	△ 12.4 %
中 央 道 利 用 台 数 (園原インター分)	入	10,248 台	△ 45.1 %	△ 26.6 %
	出	10,081 台	△ 44.9 %	△ 26.5 %
中 央 道 利 用 台 数 (飯田山本インター分)	入	33,613 台	△ 28.9 %	△ 14.1 %
	出	33,720 台	△ 30.6 %	△ 14.2 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		250 件	23.2 %	20.8 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		0 件	(前月 2 件)	(前年同月 2 件)
高 速 バ ス 乗 車 人 数	飯田～新宿	5,628 人	△ 22.9 %	△ 80.3 %
	飯田～名古屋	5,813 人	△ 21.9 %	△ 68.7 %
	飯田～長野	3,121 人	△ 17.5 %	△ 60.5 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	3,274 人	△ 20.1 %	△ 85.5 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,205 人	18.7 %	△ 14.5 %
	右回り	3,067 人	16.2 %	△ 21.0 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともにしています。



100%植物性油(インキ)
[ナチュラリス100] を使用しました。

再生紙を
使用しています

概 況

製 造 業

12月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス17.2で、前月から6.1ポイント低下。翌月予測はマイナス27.6で、前月から19.9ポイント低下。

電気、精密機械器具の売上の前月比は、業者により増減分かれるが、やや増加とする業者にあっても景況感の好転には至っていない。半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれるが、やや増加ないし増加との声が多い。前年比でも増加との声が複数。産業機器や医療機器向け部品の生産は、業者によって増減分かれる。前月に引き続き原材料単価が上昇との声が多く寄せられた一方、製品価格が低下したとの声も複数聞かれた。建築用金属製品の販売は、前月比増加も、前年比が減少していることもあり、景況感は悪化との声。自動車向け部品の販売は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばい～増加。小型電磁機器の生産は、前月比概ね横ばい、景況感も大きな動きはないという。FA関連モーターの売上は、前月比減少も、これは「決算処理の関係」で、前年比では微減。受注面で前月比増加していることもあってか景況感の悪化には至っていない。光学機器部品の販売は、前月比増加も前年比減少との声。電気、電子製品の売上は、前月比減少という。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、「スーパー等は年末の送り込みも多かった」など時期的なこともあり、前月比やや増加。とはいえ、「12月の割には少ない」「今年も厳しいと覚悟している」といった声も。水引製品の販売は、前月比やや減少。「一年の締め括りとなる正月飾りの販売」は、概ね昨年並みだった様子。漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比はやや減少との声。「新型コロナ第三波の影響もあり、業務用の商材の需要が減少しているが、第一波の時ほどではない」という。

建 設 業

12月の建設業の景況DIは7.7で、前月から2.3ポイント低下。翌月予測DIはマイナス7.7で、前月から16.8ポイント低下。

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約11.6億円、前月比3%減少、前年比では59%減少している(1月25日調査時点)。当月の受注残高の前月比は、業者により増減が分かれたが、横ばい～増加との声は引き続き多い。資材面で、一部に「リース機械等、在庫不足」により単価上昇との声。

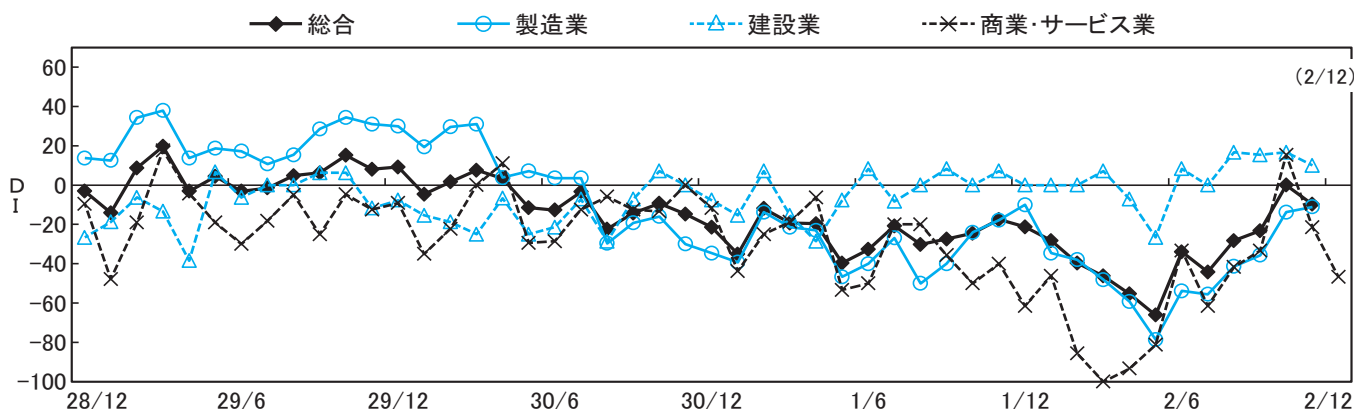
当地区の11月の住宅着工戸数は53戸。前月比39%減少、前年比でも46%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。設備投資の縮小、先送りなどコロナの影響が長期化していることを懸念する声が複数。

商業・サービス業

12月の商業、サービス業の景況DIはマイナス46.7で、前月から25.3ポイント低下。翌月予測DIもマイナス86.7で、前月から36.7ポイント低下している。

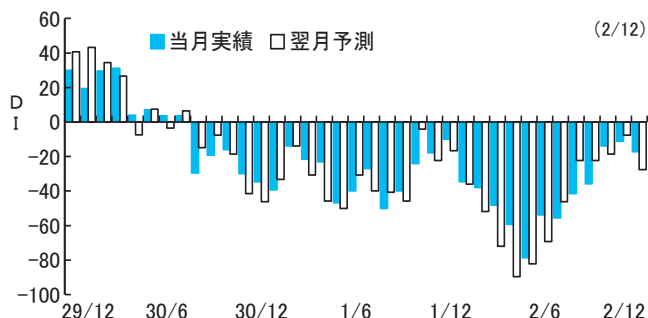
食料品の売上は前月比でやや減少～やや増加。青果卸売市場の販売は、前月比は季節要因により増加、前年比ではやや減少という。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、景況感は概ね横ばいとの声。家事用品の売上は、前月比でやや増加、先行きはやや減少を見込むという。電化製品の売上は、前月比、前年比ともやや増加。OA機器の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。衣料品の売上は、前月比、前年比とも増加との声が寄せられた。市内料理店の売上は、前月比では業者により増減分かれた。12月に入りコロナ感染者が当地域で発生した影響は大きかったとの声は多い。市内宿泊施設の売上は、前月比減少との声。昼神温泉の売上は、前月比、前年比とも減少。「GoToキャンペーンの停止を受けてキャンセルが出てしまい、売上ダウン」などコロナ第3波の影響を指摘する声は多い。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績DI -17.2（前月 -11.1）

翌月予測DI -27.6（前月 -7.7）

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス17.2で、前月から6.1ポイント低下。翌月予測もマイナス27.6で、前月から19.9ポイント低下。

【2021年（令和3年）の経営見通し】

当月は、特別調査として2021年（令和3年）の経営見通しを聞いた。この中では、①2021年の日本の景気をどのように見通しているか、②2021年の「自社」の業況（景気）をどのように見通しているか聞いたほか、③2021年の売上額の伸び率の見通し、④自社の業況が上向く転換点がいづ頃になるか聞いた。ここでは①、②について調査結果をご紹介します、③、④の結果は建設業、商業・サービス業の頁でご紹介する。

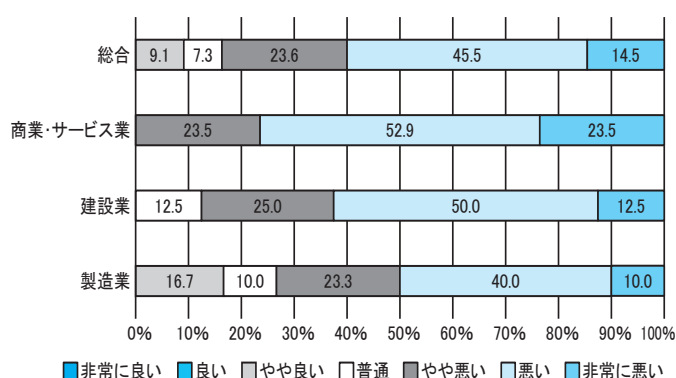
ご多忙中ご協力いただいた事業者の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

（調査概要：・本誌調査先に対し、特別調査票を配布して回収。・回答数55（製造業30、建設業8、商業サービス業17）・調査期間令和2年12月1日～令和2年12月16日）

①御社では、2021年の日本の景気をどのように見通していますか

2021年の日本景気見通しについて聞いたところ、「5G関連で受注は好転」「半導体4～6月頃より上向き。遅れる事半年位でロボット関連も上向き」など、半導体関連や建設関連の製造事業者で上向きとの見方が17%あるものの、総じて見通しは悪いとの回答が多い。「世界中で1日も早く新型コロナウイルスに打ち勝たないと何事も進まない。ワクチンに期待する」など、東京オリンピック開催の帰趨を含めてコロナの影響

2021年の日本の景気見通し

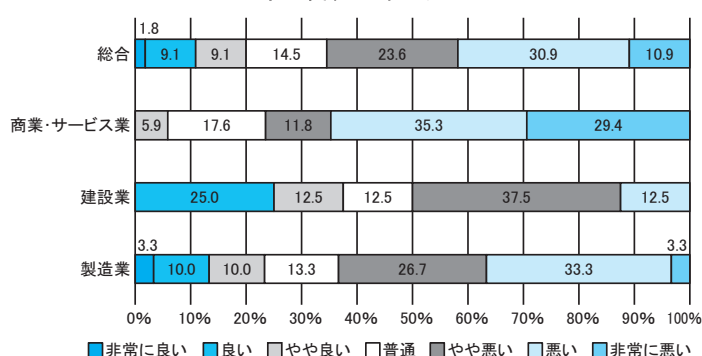


響を指摘する声はやはり多いほか、「コロナ、米中の覇権争いで今後の見通しは立て難い」「人口が減っていくので右肩下がりだと思っている」「今後国、県の財政難で、公共工事の延期や減少があるのでは」といった事情を挙げる声が聞かれた。

②2021年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか

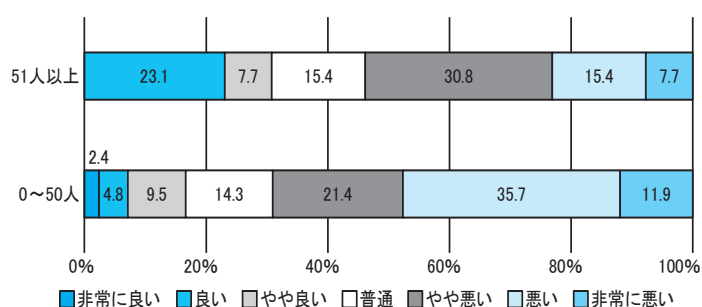
次に、自社の業況の見通しを尋ねた。日本全体の景気見通しでは上向きとみる事業者がなかった建設業だが、自社の業況見通しを聞くと、逆に上向きとの見方が多い。これには、「国土強靱化の最終年が過ぎたが、5年延長になった」「政府の3次補正予算で国工強靱化対策に重点配分が予定されている」といった事情もある様子。日本全体の景気見通しと同様に、自社の業況でも見通しが悪いとする回答が多かった商業・サービス業だが、「11月に拡大が落ち着いたとき、直ぐに50%まで売上が戻った。コロナ次第で回復できると信じている」「企業活動や人の動きが活発化すれば売上の見通しが立つ。現状では再開時期に向けて準備をしながら今を耐える」など、見通しが良いとは言えなくとも、時節を待つ声もまた多く聞かれた。

2021年の自社の業況見通し



自社の業況見通しについては、従業員規模によっても見方が分かれ、従業員規模51人以上の事業者の方が、50人以下の事業者よりも自社の業況見通しが良いとする回答が多い。

2021年の自社の業況見通し（従業員数別）



機械加工製造業

電気、精密機械器具の売上の前月比は、業者により増減分かれるが、やや増加とする業者にあっても景況感の好転には至っていない。一部に、先行きに関する景況感の好転には至らないものの、売上の増加を見込んでいるとの声も。設備面で「検討中」との声も。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれるが、やや増加ないし増加との

声が多い。前年比でも増加との声が複数。「半導体製造装置関連部品は増加傾向」「半導体関連は好調」「半導体分野が若干好調だが、お客様によって差がある。中には発注が減った客先も」「機種により増減あるものの、一部に持ち直し感あり。FPD関連は調整が続く」「ロジック系減少も、メモリー系は増加など、機種により増減がある」などの声が聞かれた。先行きに悲観的な見方はないが、「コロナ禍で不透明感は続いている。単月では上がってきているが、先行きが見えていない」との声も。「研修生を含む複数名採用。新卒採用も予定」「不足につき補充」「目下は充足も、若干名の補充を予定」など雇用面で積極的な声が多く聞かれたほか、設備面でも積極的な声が複数聞かれた。

産業機器や医療機器向け部品の生産は、業者によって増減分かれる。「受注は順調に拡大。受注残も増えている」など上向きとの声も少なくない一方で、「一部の製品は今月減少したが、これは前月単発の特需があったため。平常に戻った」といった声や、「全体的に大きく減少。一時帰休も実施」「大口案件が減少。海外向けに動きが出ないと良くならない」「海外に機械の立ち上げに行けないし、営業もできない。コロナの影響は大きい」「低空飛行」といった声も少なくない。先行きの見方も大きく分かれ、弱含みとの声が複数ある一方、「当月落ちたが、次月は回復の見込みあり」「次年度から各分野で上向きとの情報が出だした」などの声も。

前月に引き続き原材料単価が上昇との声が多く寄せられ、「アルミキロ10円高。鉄も値上がり気配」「すべての素材が上昇気味」などの声。製品価格について、「仕事量減少で相見積もりが多く厳しい」など、低下したとの声も複数聞かれた。

建築用金属製品の販売は、前月比増加も、前年比が減少していることもあり、景況感は悪化との声が寄せられた。「建築関係は来年秋口まで厳しい見込み」という。設備面で「検討はしているが、当面は様子見」との声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばい～増加。「引き合いが前倒しで始まった」などの声も聞かれた一方、先行き弱含みとの声も。雇用面で不足感があるとの声もある。

小型電磁機器の生産は、前月比概ね横ばい、景況感も大きな動きはないという。先行きは弱含みとの声も。

FA関連モーターの売上は、前月比減少も、これは「決算処理の関係」で、前年比では微減。受注面で前月比増加していることもあってか景況感の悪化には至っていない。先行きは、当面上向きの様子も、「コロナによる世界経済への影響は長期的に懸念される」など不透明感は払拭されていない様子。

光学機器部品の販売は、前月比増加も前年比減少との声。原材料、資材価格が上昇基調にあるという。

電気、電子製品の売上は、前月比減少との声。雇用面で不足感を指摘する声も。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、「スーパー等は年末の送り込みも多かった」など時期的なこともあり、前月比やや増加。一部に前年比やや増加との声も。とはいえ、「12月の割には少ない」といった声のほか、「コロナにより、お土産、テーマパーク向け、輸出は全くダメ」「今年も厳しいと覚悟している」など、先行きの不透明感は強い。

水引製品の販売は、前月比やや減少。前年に比べると、「単月としてはほぼ例年並みの売り上げで安心」「一年の締め切りとなる正月飾りの販売は、昨年並みで落着」などの声。「コロナによる生活様式の変化で、仏事や祝事の縮小は避けられないのではないか」「仏事よりも祝事の減少が大きい」といった声もある中、「コロナに負けず新商品を考えている取引先もあり、こちらも勇気をもらっている」「新規の仕事の準備をしている」「広告、宣伝など、皆で一丸になって販売に注力する必要がある」などの声が寄せられた。「エスバード内に水引体験コーナーができた。水引ドライブインの閉店などを補ってくれるものと期待しているが、こういった施設も民間で維持していくのは難しくなってきたことを意味しているようにも思う」との声も。

漬物の販売は、前月比やや増加も、前年比はやや減少との声。「新型コロナ第三波の影響もあり、業務用の商材の需要が減少しているが、第一波の時ほどではない」「販路や商品によって動きに差があるが、今後どうなっていくのか判断が難しい」などの声が寄せられた。

その他製造業

食品包材の生産は、前月比概ね横ばいも、先行きは弱含みとの声。原材料、資材価格が上昇傾向という。

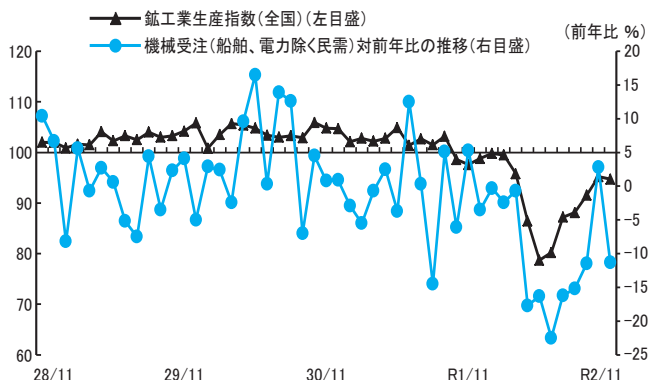
印刷、出版関連の売上は、前月比増加、前年比は減少との声。「年賀はがきは前年並み。コロナ禍で大きな不安があった年末年始のチラシの受注も、多少のダウンで収まった」との声。「イベント関連の自粛、人数制限の影響はいまだに大きい」などの声が聞かれ、景況感の好転には至っていない。

衣料品の販売は、前月比、前年比とも減少との声。「コロナ禍の下ではコート、スーツなどの需要がほとんどないため、新規受注がない。こうした状況では医療用ガウンなどの生産に取り組みざるを得ないが、春先以降の様子が全く見えてこない」などの声が寄せられた。

【企業からのコメント】

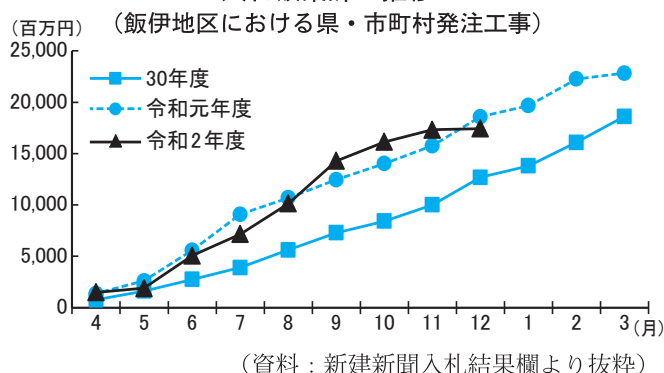
- ★当月、当地域でも思わぬコロナ感染者の多発があった。もし当社で発生したらと不安になる。対策をより強化する。
- ★コロナ対策用設備導入予定。
- ★雇用調整助成金がなくなると苦しくなる。
- ★コロナ関連の融資もあり、資金繰りは当面問題なし。
- ★在庫、仕掛かりは極力減らしている。

機械受注・鋳工業生産指数の推移



建設業

入札額累計の推移



当月景況DI	7.7	(前月 10.0)
翌月予測DI	-7.7	(前月 9.1)

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約11.6億円、前月比3%減少、前年比では59%減少している(1月25日調査時点)。

当月の受注残高の前月比は、業者により増減が分かれたが、横ばい～増加との声は引き続き多い。

「公共工事は国土強靱化対策と7月の豪雨災害で仕事はある」「国は三遠南信自動車道に伴う周辺整備や、堤防・砂防工事の発注量も多く、例年を上回っている」「県は治水工事や土木工事の発注が続き、豪雨災害復旧工事の発注も始まっている」「村内業者は公共災害工事などにより、十分な工事がある」「災害復旧工事の発注が進んでいる」などの声が聞かれた。受注残高が減少したとする業者でも、「年度末に向けて業務進捗が進み受注残高は減少したが、概ね年間契約額を受注し、前年比では増加」との声が聞かれた。ただ、景況感は概ね横ばいとの声が多い。

先行きに関しては、「災害関連事業の発注や補正予算の執行が今後行われると思う」「今は順調だが、新年度となる4月以降は未定」との声が聞かれ、先行き景況感も概ね横ばいとする声が多い。

完工高については、前月までの旺盛な発注の影響もあり前月比増加、ないし先行き増加を見込む声が引き続き多い。

雇用面では、不足との声が引き続き多く、「下請け、パートアルバイト、シルバー人材に対応」「施工社員不足」「技術者が不足」「土木建築技術者、営業を募集」との声が聞かれた。設備面では、「古い機械、車両の入替」「今後、大きな機械、車両の購入予定」「ソフトウェアの導入を検討」などの声が聞かれた。またコロナ感染拡大の影響を受けて、今後「分散型事務所の確保」との声も。

資材面で、一部に「リース機械等、在庫不足」により単価上昇との声が聞かれた。

民需

当地区の11月の住宅着工戸数は53戸。前月比39%減少、前年比でも46%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。

住宅では、「新築は先行き不透明感から減少」「新築工事の受注なし」「建築の仕事は少なく、新築住宅の

手持ちがある分まだ救われる」などの声。

また、住宅以外の一般民間建築については、コロナの影響が長期化していることを懸念する声が複数あり、「コロナの影響で、民間工事の冷え込みは続いている」「大型建築工事がなく厳しい」「民間工事はコロナの影響で企業の設備投資が縮小、先送りとなっており、工事量が伸び悩んでいる」「一般工事や公共工事がほとんどなく、見込みもない」などの声が聞かれた。

建設資材

建設資材、塗料等の売上は、前月比減少、前年比は概ね横ばいという。景況感は概ね横ばいも、先行きについては弱含みとの声。「1～2月は例年売上減となるが、コロナの影響が3月以降どう出るか見通しが立たない」との声が聞かれた。

当月の生コンの売上は、前月比は業者により増減分かれるも、前年比では総じて増加との声。当月の主な出荷は、「三遠南信工事、発電所工事、砂防工事、治山工事、築堤護岸工事、河川床固工事、工場建設に関わるもの」で、「リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の5%弱」だったという。「12月は忙しい生コン工場が多かったように思われる」との声が聞かれた。先行きについては概ね横ばいとの声が多い。

骨材の売上は、前月比は概ね横ばいも、前年比では増加。景況感には大きな変化は見られない。「生コンは当初期待したほどではないが、そこそこ動いている」との声。雇用面では今後増員を検討する声も聞かれた。

【企業からのコメント】

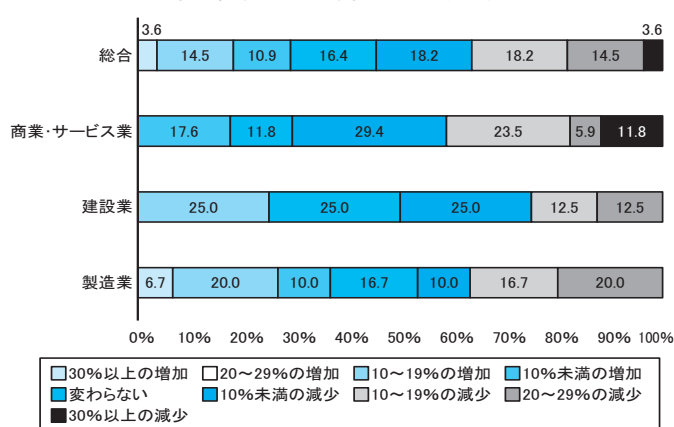
- ★令和3年は明るい兆しを見たい。
- ★コロナによる、消費者のマインドが気になるところ。
- ★仕事のない建設会社は見受けられない。ダンプカーは慢性的に不足しており、リニア需要最盛期が間近になったが準備が急がれる。

【2021年の自社の売上高見通し(前年比)】

12月調査で、2020年と比べた2021年の自社の売上高見通しについて聞いたところ、全業種では「10%未満の減少」「10～19%の減少」が同率1位となった。売上高が減少する見通しとの回答は半数を超えており、反対に売上高が増加する見通しとの回答は3割弱となっている。

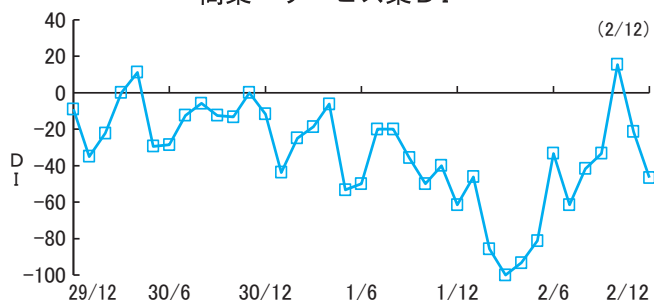
また業種別に見ても、全ての業種において、売上が減少する見通しとの回答が、増加する見通しとの回答を上回る結果となっている。

2021年の自社の売上高見通し(前年比)



商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI -46.7 (先月 -21.4)

翌月予測DI -86.7 (先月 -50.0)

商業

食料品の売上は前月比でやや減少～やや増加と、業者により増減分かれた。「地域の生活応援券支給により購買意欲が上がっている」「コロナ感染が続き、家庭での食事習慣が根付いてきている」との声が聞かれた一方、「年末の帰省者が少なく、特注品は昨年比減少」との声もあり、前年比で売上減少とする業者が複数あった。仕入価格については、やや上昇傾向との声が複数寄せられた。

【青果卸売市場】

販売は、前月比は季節要因により増加、前年比ではやや減少という。

野菜は、「価格は依然安く、特に葉茎類は顕著。コロナの影響もあり野菜全体の動きも悪く、前年比で入荷4%減、価格は13%安となった」という。

果実は、「市田柿は作柄不調も、天候が良く出荷が早まったことで12月はほぼ前年並み。年明けの出荷量は激減するもよう」「苺は前年並み、りんごは入荷、価格ともに前年割れ、みかんは豊作」「果実全体では入荷量10%減、価格は市田柿のウェイトが高く5%高」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加、景況感はいま横ばいとの声。年明けの売上はやや減少の見通しという。

家事用品の売上は、前月比でやや増加、先行きはやや減少を見込むという。「年が明けて、消費は鈍ると思う」との声が聞かれ、先行き景況感はやや悪化との声。

電化製品の売上は、前月比、前年比ともやや増加。「家電製品全般が好調。先月同様、コロナ対策として、換気機能付エアコン・空気清浄機・加湿器等の受注が多い」「全国的な需要増により、各メーカーとも生産が間に合っており在庫確保が難しい」などの声が寄せられた。

OA機器の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。「オフィス家具の見通しが立たない状況。中古家具の市場も商品が流れず、在庫過多の状況が続いている」という。今後の売上は減少を見込んでおり、先行き景況感悪化とのこと。

衣料品の売上は、前月比、前年比とも増加との声。「自治体のコロナ対策商品券が始まり売上増加も、その反動や近隣町村でのコロナ感染増加により、先行きは不透明」などの声が寄せられた。

サービス業

市内料理店の売上は、前月比では業者により増減分かれた。12月に入りコロナ感染者が当地域で発生した影響は大きかったようで、「忘年会の予約がキャンセルになった」「組合、壮年団など、毎年の忘年会がキャンセル」との声が聞かれた。売上増加の業者からは「忘年会の代わりにテイクアウトの注文が多く助かった」との声。年明けに向けては先行き不透明感が強く、「新年に向けての予約が止まった」「感染者増加で、来年はどうなるのか」との声が聞かれた。

市内宿泊施設の売上は、前月比減少との声。「12月前半まではやや好調も、GoToトラベル停止による影響で年末年始の売上を大きく落とした」「コロナ第3波の影響で客足が

鈍り、GoTo停止によりキャンセルが相次いだ」との声が聞かれた。販売単価は下降との声が複数あり、「稼働率維持のために販売単価を下げ、売上確保の努力をした」との声も。

昼神温泉の売上は、前月比、前年比とも減少。景況感悪化という。コロナ第3波の影響を指摘する声が多く、「GoToキャンペーンの停止を受けてキャンセルが出てしまい、売上ダウン」「GoToキャンペーンの再開を待つのみ」等の声が聞かれた。年明け以降も厳しい状況は続くとの見方が多く、「1月は12月よりも、前年比売上は厳しくなると見ている」「GoToの停止が長期化する可能性もあるのでは」などの声が寄せられた。

【調査先企業の声】

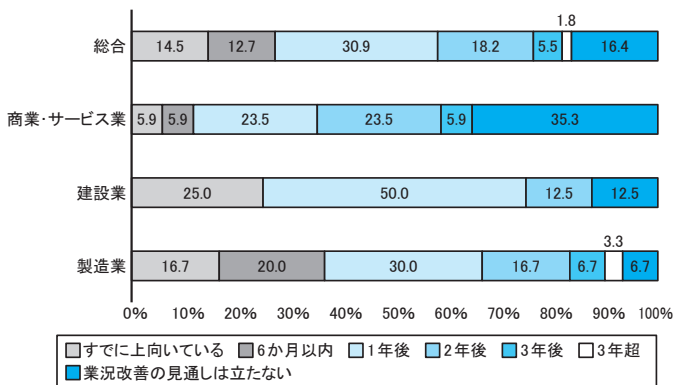
- ・公共・民間とも、「換気」をキーワードとした設備投資が進み始めている。
- ・県内でのM&Aの動きが加速しているように思われる。
- ・都市部ほどコロナの影響は少ないものの、他県の取引先は厳しい状況とのこと。
- ・コロナ終息後の展開は考えているが、終息がいつになるかわからないのが心配。
- ・スタッフや宿泊客への安心・安全のために、ウイルス対策のコーキングを実施する。
- ・このままでは、ホテルは再び休業になる。従業員への休業保証を復活させる準備に入る。

【自社の業況が上向く転換点】

12月調査で自社の業況が上向く転換点の見通しについて聞いたところ、全業種では「1年後」が約3割を占めて最も多く、次いで「2年後」「業況改善の見通しは立たない」の順となった。

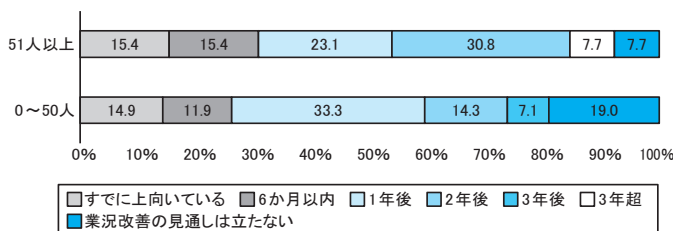
業種別に見ると、建設業では「1年後」が最も多く5割を占めており、次に「すでに上向いている」が多かった。製造業では「1年後」が3割で最も多く、次いで「6か月以内」「すでに上向いている」の順となった。それに対し、商業・サービス業では「業況改善の見通しは立たない」が最も多く、「1年後」「2年後」が同率2位となっており、他業種に比べ、先行きの不透明感が顕著に表れた結果となっている。

自社の業況が上向く転換点（業種別）



また、全業種による従業員数別の比較では、51人以上の事業者で「2年後」との回答が最も多く、業況が上向くには時間がかかると感じている傾向が強い。対して、50人以下の事業者では「1年後」との回答が最も多くなったが、次いで「業況改善の見通しは立たない」が多くなっており、先行き不透明感は従業員規模が小さい事業者で強い傾向が見てとれる。

自社の業況が上向く転換点（従業員数別）



流れ雲の目（39） 自然流

飯田信用金庫 地域サポート部
専門アドバイザー 小泉 敏郎

表題で言う自然流（じねんりゅう）とは、柔道、空手や剣道、居合抜きという武道の流派のことではない、私が50年近くに渡りビジネス世界で自らを鼓舞するために使ってきた言葉である。

人類を含めあらゆる生物が生活している地球、その大自然の前には我々生物では対応できない様々な現象がある、温度、雨、雪、霰、雹、台風、竜巻、地震、その他にも様々な天変地異、災害もあるし昨今一番の禍の新型コロナウイルスも未だ解決の目処が立たない状況でもある。

長い会社経験での最大の悩みは、気の合わない上司との人間関係がまず挙げられるだろう。

会社の規模に関わらず、社員間の人間関係は最大の問題点でもあるし、客先、仕入れ先を含め取り巻く環境における人と人との関係は非常に難しい。

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい」と夏目漱石が著書『草枕』で書いている。

大自然に対してはいくら抗ったとしても勝てるわけもなく、古来人間は僅かには凌ぐ方法を編み出してはきたとはいうもののとても全てに対応できるわけではないし、誰を恨むこともできず素直に受け入れざるを得ない。しかし人間は人間に対しては素直に従ったり諂ったりはなかなかできることではないし、お互いに我を通せば争いを生むこととなる。

会議などでは同じ目的を持ち、会社の業績向上に向け仕事をしているわけだが、それぞれのやり方、思考方法に当然違いがあり中々意見は纏まらない。誰も自分の意見が一番正しいと主張するから時間ばかりかかるが一向に進展しない、挙げ句の果ては相手に自分の人間性を疑われるような言動をすることも間々ある。上下関係が厳しい会社では当然上司の意見が採用されることになる。会議で決まったからといっても納得していないことに部下が快く動くわけでもないで良い結果は生まれてこない。そんなことが度重なればお互いの人間関係は益々崩れ、結果業績は向上どころか急降下することもある。数年も会社生活をすればこんな場面を誰も何度か経験していることと思う。

私の言う自然流とはこうしたことを踏まえた上で如何に自分の精神衛生に良い生き方をするかということである。会社の規模に拘らず上下関係が一番難しいのが人間社会の特性である、そのことをまず念頭に置いて自分の精神状態を安定に保ち、少しでも自分の意見が採用されるようにどうすれば良いかを考えること、言葉で言えば簡単だが実際はこれが一番難しい。精神衛生に良い生き方というと、周りに垣根を作り自分の殻に閉じ籠った生き方とか、周りに諂ったり忖度したりする生き方で自分の意見も言わず迎合する生き方のように聞こえるが、決してそうではなく、自分の意見が通り周りとも友好関係を保てる生き方をするのである。そんな都合の良い方法があるのだろうか？

非常に難しいことであるが、実は本人の努力次第でできることなのである。

大きく分けて二つの要素がある。一つ目は至極当たり前の基本的なことである、自分の持ち分、仕事をきちんとやりこなすこと。過去の経験を踏まえ、的確な現状認識、そして将来方向を見据えて今現在何をするのが最善

策かを考え実施すること。

二つ目は今自分がその会社で置かれている立場をよく考え、周りの人間の性格、動向、思考を読み切ること。

確かにすぐにできることではないが、長年勤めていれば少しずつでも把握できるようになるし、把握しようと思ひ努力する心を持つことが大事である。

その会社に愛着を持ち貢献する気持ちがあるならば、自分が今何を最優先でしなければならないのか、そして上司や同僚、部下の性格や考え方、動向を把握しようとする努力を惜しんではならない。この二つを念頭に入れ毎日の仕事に臨めば自ずと精神衛生の良い会社生活が営めると思う、これが私の言う自然流である。

誰も厳しい経済環境の中で生きている。良かれと思っても集団生活の中ではすべてが自分の思うようにはいかないし、周りも皆んな良かれと思ひ考え行動している訳だからその中で如何に自分の意見を採用されるかは本人の日頃の努力以外には方法がない。このことをよく弁えて行動することが大事である。会社で言うなら如何に客先に必要とされるかを考えて経営することしかない。世の中に必要とされる者は生き残るが、そうでない物は時間と共に消滅していくのが自然の摂理である。

世の中は凄い勢いで変化し続けている、その環境の中で貴方は会社にとって必要な人材なのだろうか、貴社は世の中にとって必要な企業なのだろうか。

今必要でも近い将来も必要であり続けるのであろうか、自分自身、自分の会社をもう一度本気で見直して将来に備えることが肝要ではなかろうか。

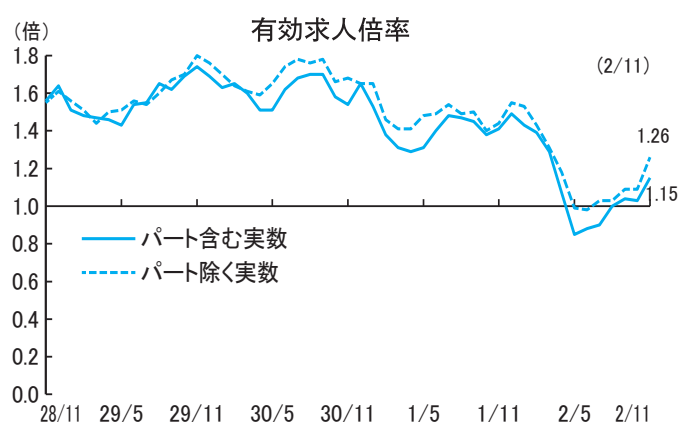
皆様が前向きに明るい明日に向かって突き進まれることを期待しています。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

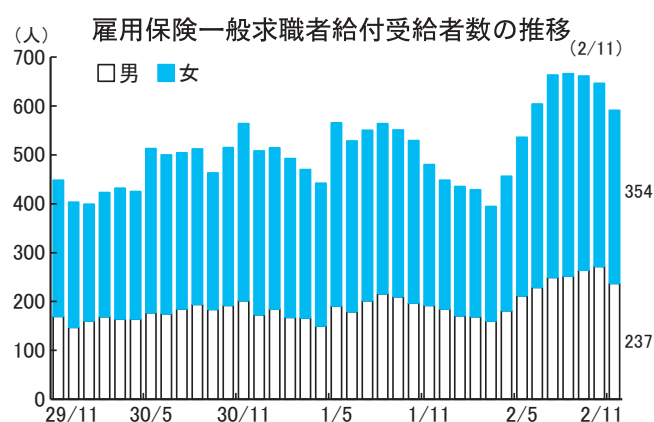
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見しお話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



令和2年11月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.15倍と、前月から0.12ポイント上昇。パートを除く実数も1.26倍で、前月から0.17ポイント上昇している。



令和2年11月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は35人減少、女性も20人減少。全体では591人で、前月から55人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)

飯田市議会リニア推進特別委員会研修会講演

『リニア新幹線とまちづくり（上）』

～ 郊外駅の行方・コロナ時代の新幹線 ～

新幹線研究の第一人者青森大学社会学部 櫛引素夫 教授が12月11日飯田市議会リニア推進特別委員会（井坪 隆 委員長）主催の研修会講師として Zoom によるリモート講演を行った。櫛引教授およびリニア推進特別委員会の許可を得て、櫛引教授の講演を紹介する。

【講演】 櫛引素夫 青森大学教授



青森大学社会学部
櫛引教授

1. 主な郊外型新幹線駅の特徴と問題点・課題

まず、実際に見てきた郊外型の駅の実状を紹介することで話を進めたい。

■新青森駅（東北－北海道新幹線）コンパクトシティのコンセプト駅前に見られず

現在地に決まるまで、地元の現駅併設要望と郊外駅の国鉄案を巡って8年越しの対立となりしこりが残る。また、「現駅併設を主張していたため開業が遅れた」との言説が定着し都市伝説となった。このような都市伝説が各地に生まれるのが新幹線の恐いところ。青森駅からターミナル機能が移り特急の発着が無くなって、青森市民の港湾都市＝青函連絡船・交通の要衝というアイデンティティが失われ、浮き足立って今に至っている。



新青森駅

青森市はコンパクトシティで全国の先進事例となり、現在は「コンパクト＆ネットワーク」として新青森駅がその極と位置付けられているが、今の新青森駅前にスローガンのどのような機能・役割が駅前に実現していて、それによりどんな街づくりがされているのか、私には見出せない。

■新高岡駅（北陸新幹線・富山県）速達型列車停止にエネルギーを消費

高岡市は人口17万人。金沢・富山の間にあって両市には及ばないが、長らく旧北陸本線の特急が全部止まる街という市民の強いアイデンティティがあった。新幹線駅が郊外に設置されることになり、速達型「かがやき」停車を願ったが叶わず、1日1便の臨時列車を除いて通過と決まり、それも後に週末のみとなって市民のプライドは傷ついた。行政を始めとして新幹線乗車運動など速達型停車に傾注し過ぎた。目的と手段の取り違え。新幹線駅に加え、在来線駅の周辺整備も行い市財政が悪化。官民挙げての開発整備にもかかわらず、中心市街地から百貨店が撤退し「新幹線が来たから……」と、ここにも都市伝説が生じている。



新高岡駅

私は駅を見るときに待合室に注目する。その街の駅に対する考え方が如実に現れるから。金沢・富山駅になくて新高岡・博多駅にあるもの、それはパソコン用電源のコンセントと Wi-fi 環境。開業当時 Wi-fi 等の普及がまだの頃に、ビジネス利用を考えられてつくられた駅であった。

■新函館北斗駅（北海道新幹線・北海道）整備新幹線構想と地元の思いとのギャップが一番大きい駅

駅が置かれている北斗市は人口5万人。漁村、農村、ベッドタウン（函館へ通勤）の面を併せ持っている。駅名決定では函館市が「新函館駅」を主張、北斗市は「北斗」を入れることにこだわり、駅名を巡る対立に多くのエネルギーを費やした。ここが新幹線の恐ろしいところ。新幹線開業は未知の領域のため、判り易いところでそれぞれ主張し、落としどころを探る戦いが生まれる。

駅前の13.5haは埋まっていない。北海道庁が駅前に10数階建ての集合住宅を建設したが買い物をするところもない。地元経済界が頑張って建てた駅ビルの商業施設は、テナントの半分がコロナ禍以前に撤退。駅前をどうするか明確でないため、地元の足並みが揃わない。函館・北斗両市は新幹線駅が市街地から離れていて連携しようにもどうしてよいか判らない。これには、J R北海道は J R 東日本のようなデベロッパー機能が充分でないという事情もある。



新函館北斗駅と函館への連絡列車「はこだてライナー」

■新八代駅（九州新幹線・熊本県） 降りる用事のない駅

八代市は人口12万人で熊本市に次ぐ県下第2の都市。新幹線駅は鹿児島本線八代駅から1駅。2004年から2011年の間九州新幹線の始発・終着駅だった。今は在来線、高速バスで宮崎方面への乗り継ぎ程度。九州新幹線全線開通後も駅前には当時と殆ど変わっていない。当駅はいずれ途中駅になるとの意識があったせいか、駅前をどうにかするという積極的な意思は余り感じられない。地元にも強いこだわりはない。

■黒部宇奈月温泉駅（北陸新幹線・富山県） 駅前に何も無い

魚津駅に替わって富山県東部地域の交通拠点となり、富山地方鉄道と接続（新駅設置）。YKK-A P創業の地で、本社機能の一部が黒部市に戻ってきたことが大きい。駅前に敢えて余りお金をかけず駅前には何も無い。黒部市中心市街地は厳しいが、注目されるのは市内にYKK-A Pが中心となって「パッシブタウン」という省エネ住宅（家賃月18万円）がつくられ、住生活とエネルギーに関する実証実験が行われていること。開業後も地域に雇用の場が多く、人口減少等はみられない。



黒部宇奈月温泉駅

これまでの交通拠点だった魚津市では、市は開通後を「そんなに悪くない」とみている。魚津市から新幹線駅を結ぶ道路が整備され、このロードサイドに郊外型店の集積ができ、賑わいがみられる。在来線の魚津駅が衰退したという声があるが、それほどネガティブに捉えられていない。

■上越妙高駅（北陸新幹線・新潟県） コンテナ商店街で駅前に変化

上越市は人口20万人で新潟県第3の都市。市街地は直江津、春日山、高田があり、これに旧信越本線脇野田駅横に新幹線駅という第4極ができ、しかも南北に線状に並んで引っ張り合うという状態。

駅前は暫く更地が広がるのみだったが、コンテナ商店街「フルサット」という21世紀の未来の街といえるものができた。これを契機としたようにホテルが3棟進出し、最近では駅ピアノも置かれたという。しかし市民からは未だに「駅前の一等地に何で駅ビルでなくコンテナ施設…」という声が聞かれる。



上越妙高駅とコンテナ商店街「フルサット」（櫛引教授提供）

コンテナ商店街設置者の関連会社「北信越ラボ」がIT関連のレンタルオフィスを手掛けて首都圏と行ったり来たりするビジネス需要を取り込んでおり、新潟県により起業拠点として最近指定された。また二次交通の取組みとして、電動車椅子の実証実験が行われている。このような実証実験と新幹線駅とは相性がよく、地方の駅でこそ取り組めるもの。駅地域のブランディングという観点でヒントとなる。

■佐久平駅（北陸（長野）新幹線・長野県） 新幹線が今の駅前を造ったのではない

佐久平を郊外型駅のモデルと捉える向きはあるが、今の駅周辺の賑わいは新幹線駅ができたからではない。考えるに、郊外店を出店しようとする商業者がこの地域で出店する場所を探していて、たまたま新幹線駅周辺の一帯がポテンシャルを持っているということで集積ができた。新幹線はきっかけだったかもしれないが、新幹線が佐久平駅前を造ったのではない。新幹線が「無から有を生む」ことはない。

■七戸十和田駅（東北新幹線・青森県） 新幹線駅前に賑わい

当駅は新青森駅の一つ手前で、十和田湖観光の十和田市が隣接する。奥入瀬溪流に向かう人の利用のほか、美術館ランキングでベスト10に入る十和田市現代美術館が青森県立美術館と並んで人気。七戸町役場を新幹線駅前に移転、商業施設もできて駅前に活気が出ているが、旧市街地は厳しい。

■八戸駅（東北新幹線・青森県） 新幹線開通により地域のバージョンアップ

2002年から2010年まで東北新幹線の終着駅。駅が立派になり知名度が上がったというのが市民の受け止め。漁港の街で、魚は食品加工業の原材料であったのが、駅前に活魚料理の店ができ食文化を提供できる街になった。公共施設併設を条件に駅ビル（中にJR系ホテルメッツ）ができ、スポーツアリーナが駅前に設置されている。二次交通では、路線バスの編成を行い、市営バスか私鉄バスが必ず10分置きに来て中心市街地へ向かう運行をするようになり利用者増となった。

（文責：しんきん南信州地域研究所）

（飯田信用金庫 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）